

教育課程・学習成果の検証

1. 研究科・専攻の教育課程について、院生の履修状況に対して開講科目数は適切か、非常勤講師比率は適切か、院生にとって体系的な科目編成となっているか等を検証

【検証結果（全体概要）】

2020年度はコロナ禍にあったが、履修指導に対する評価は大学院アンケートにおいても令和元年に引き続き高評価を得ている。また、オンライン授業も含め各教員が授業や研究に工夫を行っており、開講科目数は適切であったと判断する。また、非常勤講師比率については2020年度1.7%であり教育課程において適切であると判断する。

さらに、院生にとっては、造形意匠（デザイン）学、アパレル造形学、空間造形学の3研究領域における基礎的・先進的な専門知識・技能の修得だけでなく、それぞれの専門領域において演習、研究指導、論文の指導など、自立した研究課題を設定して遂行できるような体系的な科目編成となっていると判断する。

【成果および向上施策】 ※無い場合は「特筆すべき事項なし」と記入。

オンライン授業が多い中で自宅で授業を受けることが可能となり、また自主学習を促すなど受講の仕方が多様化することで、学生の学習・研究の意識向上につながっていると判断する。

【課題および改善施策】 ※無い場合は「特筆すべき事項なし」と記入。

特筆すべき事項無し

2. 「大学院生アンケート」 (<http://web.kyoto-wu.ac.jp/gakuseki/cat82/20210324132744.html>) 等の資料を参考に、研究科・専攻の教育について、効果が挙げられている点、改善すべき点を検証

【検証結果（全体概要）】

大学院授業は少人数であること、且つ学習内容は高度なものとなることから、対面で行うことが望ましいと判断するが、コロナ禍にあって、オンラインでの教育に可能性を求めた教員の対応にも効果があったと判断する。

【成果および向上施策】

オンライン授業と対面授業が組み合わせられたことで、課題とレポートが中心となる場合も見られたが、受講生は積極的に取り組んでいる姿勢を伺うことができた。

【課題および改善施策】

特筆すべき事項なし

3. 研究科・専攻として行っている、教育の質向上・改善に向けた組織的な取り組み（FD）はどのような内容か、どのような課題認識に基づくものか。

【検証結果（全体概要）】

異なる分野を担当する教員が他分野の学生の研究成果を評価する合同研究会を行っており、教育・研究内容の質的向上・改善に取り組んでいる。

【成果および向上施策】 ※無い場合は「特筆すべき事項なし」と記入。

異なる専門分野の教員が参加する合同研究会において、教育・研究内容の質的向上・改善は行われている。

【課題および改善施策】 ※無い場合は「特筆すべき事項なし」と記入。

特筆すべき事項なし

4. 教員組織の編成（採用・昇任等）にあたって、職位構成および年齢構成のバランスに配慮した編成をおこなっているか。また、カリキュラムに基づく教員組織となっているか。

【検証結果（全体概要）】

教員組織の年齢構成は、高齢化が進んでいるが、新規採用教員枠については講師、准教授も含めた若年層に期待したい。又、職位構成に関しては教授の比率が64%であり、大きな問題は無いと判断できる。

本専攻で新規に必要な人員が生じた場合には、大学院の指導教員、指導補助教員、授業担当教員としての適格者であることを条件とし、手続きや基準に従って審査されてきた。また、授業担当教員から指導教員、指導補助教員になる場合も、選考委員会を設置して審査し研究科委員会で承認するなど、教員の募集・採用・昇任は適切に行われている。

【成果および向上施策】 ※無い場合は「特筆すべき事項なし」と記入。

新規採用教員枠については講師、准教授も含めた若年層に広げて募集を実施する。

【課題および改善施策】 ※無い場合は「特筆すべき事項なし」と記入。

特筆すべき事項なし